

点検検証部会第2ワーキンググループ第5回会合 議事概要

1 日 時 平成31年4月19日（金）15:00～17:21

2 場 所 総務省第二庁舎 6階特別会議室

3 出席者

【委員】

西郷 浩（座長）、川崎 茂、嶋崎 尚子

【専門委員】

川口 大司、西 美幸

【説明者（各府省）】

内閣府

総務省

厚生労働省

経済産業省

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官、平野大臣官房審議官、澤村統計審査官

統計委員会担当室：櫻川室長、永島次長、阿南次長、柴沼次長

4 議 事

（1）基幹統計（加工統計）について（ヒアリング）

（2）その他

5 概 要

（1）基幹統計（加工統計）について（ヒアリング）

事務局から、資料1-1～資料7に基づき、基幹統計（加工統計）について総括的な説明が行われた後、内閣府、総務省、厚生労働省、経済産業省より補足説明が行われ、その後、ヒアリングが実施された。

主な発言は以下のとおり。

- ・復元に必要なデータの保存について、加工統計は調査統計とは別の捉え方が必要かもしれない。一定期間が経過し、外部からのチェックを経た後は、全部の基データを保存しなくてもよいのではないか。
- ・加工統計については、リビジョンスタディーという側面から保存の必要性を見ることも重要。
- ・人材育成の長期的視点について、困っている事などは無いか。

- 統計部局は行政の中でも専門性を有する分野と思われるが、行政機関の一つとして基本的に2年ローテーションに組み込まれることが多く、統計のスキルやリテラシーが非常にアップデートしていく中で、こうした人事サイクルは人材育成に課題が残る。
- 専門的な知見を要する中で、人事ローテーションにより覚えたらすぐ異動という形が多く、人材確保は苦勞している。
- ・加工統計に関する国際基準を作るのに、日本として貢献することが非常に大切、どう取り組んでいるのか。2年の人事ローテーションだと、長い常連が参加している国際会議への参加に問題が発生しているようなことはないか。
- 国際的な基準への参画は公的統計の整備に関する基本的な計画に載っていることもあり、昨年国際基準課という組織を作り、国際基準作りへの貢献を重視している。
- OECDの専門家会合への職員の派遣や、OECDそのものへの職員のトレーニング派遣、国際機関からの講師招聘による講演会の開催等交流を行っている。
- ・SNAや産業連関表といった加工統計の業務経験は、離れたら無駄になるというわけではない、一次統計の部署で役に立っていくこともあるだろう。経験年数2年未満の職員を加工統計の部署に配置する教育的な観点をどう捉えているか。
- 統計の基本的なところを学んでから実務に入っていく、段階的に作業の文脈が分かってくる。出向者であれば、2年という短い期間でもSNA部局における実務経験を戻った後でマクロの経済統計量を扱うことに生かしていただくことを期待している。
- ・加工統計におけるエディティングのあり方について、どういうエラーチェックが行われているのか、例えばSNAで工夫していることがあれば教えてもらいたい。
- SNAについては、関係課が様々な観点からチェックする、アウトプット間の恒等関係のチェックを自動化して実施する、公表する系列をグラフで打ち出して不自然な点がないかを確認するなどの審査を行っている。
- ・入力自体のチェックは例えば人口推計だとどのように行われているのか。
- 入力から出力まで電子的な手段で一貫していたが、法務省からもらったデータを集計システム側にインプットする際に途中でデータの一部が転送されなかった事案が発生したため、転送前後でデータのファイルサイズを確認し、情報量が変わっていないかのチェックもするようにした。

(2) その他

西郷座長より、ワーキンググループのヒアリング結果を点検検証部会に報告することが説明され、とりまとめに関しては座長一任として了承された。

(以 上)

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>